

東宝

東宝創立50周年記念
森谷司郎監督作品

海峡

その時、女は忍びつづけた恋の終りを知った――

その日、男は挑みつづけた夢をその手に握った――

高倉 健
吉永小百合
三浦友和
大谷直子
青木 峯子 (新人)
伊佐山ひろ子
東野英心
小林稔侍
中川勝彦 (新人)
山谷初男
桑山正一
大滝秀治
小澤栄太郎
藤田 進
笠 智衆
森繁久彌

50
1931.4.2 202

解説

本州と北海道を分断する津軽海峡。10万年前、この海は陸続きだった。冬になると遠くシベリアからマンモスが厳寒を避けて南下してきたという。そして今、この海の底100メートルに〈本州から北海道へ風を通す〉ために執念を燃やす男がいた。

映画「海峡」は海を貫いて道をつけることに人生のすべてを賭けた男の強く熱い生きざまを、空前のビッグ・プロジェクトといわれる青函トンネル工事と厳しく美しい竜飛の自然を背景に彩やかに描きあげる《東宝創立50周年記念》大作である。

「八甲田山」「動乱」の森谷司郎監督のもと現代日本映画界の最高スタッフが集結、加えて南こうせつが始めて映画音楽に挑戦する。出演者は主人公・阿久津に高倉健。阿久津をひたすら慕い続ける女・多恵に吉永小百合。阿久津を助け難工事に挑むトンネル掘りのエキスパート源助に森繁久彌。洞爺丸遭難で失った両親への弔い合戦として工事に参加する若者・仙太に三浦友和。ほか豪華多彩な布陣。そして全国オーディションで選ばれた青木峯子、中川勝彦がフレッシュにデビューする。

物語

青函連絡船「洞爺丸」が転覆し大量の遭難者を出したのは昭和29年9月であった。自然の猛威に出会う時、人はわずか20数キロの海を渡ることが出来なかった。国鉄青函トンネル技術調査団の阿久津剛は、津軽の海底を一人で調べ始めた。誰かが歩き始めなければ道は出来なないのだ。

吹雪舞う冬の竜飛岬で阿久津は牧村多恵を救った。この日から多恵の新たな人生が始まった。それは阿久津をひたすら慕い続ける、忍ぶ恋に生きる日々であった。

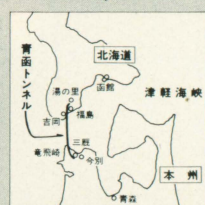
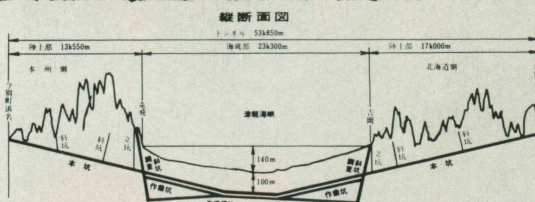
昭和32年、阿久津に明石海峡調査の辞令が下りた。津軽海峡に心を残しながら、阿久津

は7年間故郷の岡山にいた。親に推められて佳代子めとり修をもうけた。

昭和39年日本鉄建公団が発足した。竜飛に戻った阿久津を多恵が迎えた。まず阿久津がしなければならぬ仕事は人集めだった。総号令と呼ばれる岸田源助を口説ければ、源助を募う穴掘りのプロがついて来る。源助に阿久津が力説する。「今から10万年前、津軽海峡は陸続きだった。マンモスが音をたてて渡っていた。そこに人間が二本の足で渡れる道をつけたのだ。」

41年、調査斜坑掘削が開始された。公団第一期生の募集に成瀬仙太が応募してきた。仙太は12年前、母の腕に抱かれたまま洞爺丸から浜に打ち上げられた若者である。源助、阿久津、仙太。竜飛には津軽の海を掘ることに憑かれた三代の男たちがいた。そして多恵、峯子、その母おれん。トンネル男たちを見守る女がいた。

工事は未知の岩盤との闘いであった。断層破砕帯を固め、出水を防いでは前に進む。2ヶ月で5メートルしか進めないこともあった。阿久津の父が危篤に陥った日、大出水が起きた。排水能力を超えた奔流が先導導坑を満たそうとしていた。工事開始以来の最大危機を前に、阿久津の決断が迫られていた。



●キャスト
阿久津剛……高倉健
牧村多恵……吉永小百合
成瀬仙太……三浦友和
佳代子……大谷直子
おれんの娘……伊佐山ひろ子
作業員野崎……東野英心
金丸五郎……小林稔侍
阿久津修……中川勝彦
石谷音太郎……山谷初男
横溝平作……桑山正一
鉄建公団理事……小澤栄太郎
岡部……藤田秀治
十河国鉄総裁……藤田智衆
阿久津の父……立久彌
岸田源助……森繁久彌

●スタッフ
監製……森谷司郎
製作……田中友幸
原作……森田道夫
脚本……田中友幸
脚本……森田道夫
撮影……森田道夫
美術……森田道夫
音楽……森田道夫
録音……森田道夫
編集……森田道夫
製作……森田道夫
配給……東宝株式会社

青函トンネルは、青森県東津軽郡別所町浜名から北海道上磯郡知内町湯の里までの五三・八五キロという世界最長のトンネルである。陸上部分三〇・五五キロ、海底部分二三・三キロで、工事の最も難しい海底部分は竜飛岬と吉岡の両側から掘り進んでいく。トンネル建設の構想は昭和初期からであったが、本格的な取り組は戦争末期の軍部、鉄道省のもの。

●調査斜坑
本州側は竜飛から北海道側は吉岡から海岸線をこえて海底下約100メートル地点までトンネルが掘られる。

●先進導坑（パイロットトンネル）
調査斜坑が完成すると、両側から中央部に向かって掘られる。音響測探、海底探査、ボーリングなどを行い、このトンネルが「眼」のほらたして機能する。本坑完成時には排水坑として機能する。

●作業坑
先進導坑とあわせて掘られる。本坑の施工を確実に進めるためと、先進導坑と本坑の土石、建設資材の搬入のためのトンネル。

●本坑
技術的にも、工費、工期についても、確信がもてた時に作業坑から何本もの連絡横坑が掘られ、その地点から分割施工される。

海峡

森谷司郎監督作品
東宝創立50周年記念

海をつらぬいて伸びる一本の道—この巨大なるもの、人間の小さき手よりなる。